

2019年度 芸術創造特別支援事業
リーディング・プログラム「YokohamArtLife（ヨコハマアートライフ）」

プロジェクトの改善へ向けた目標設定と評価の実施について

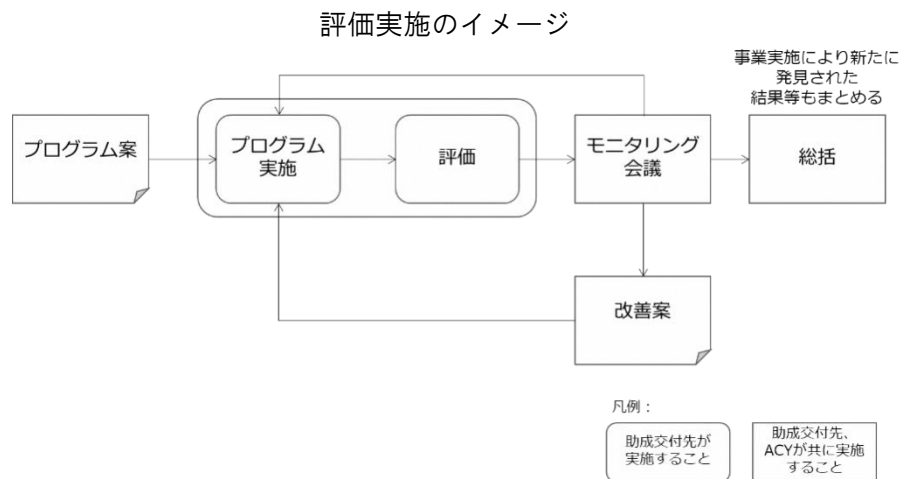
1 評価指標

本支援事業（リーディング・プログラム）では、実施（申請）団体に審査段階と成果段階で、プロジェクト実施によって目指す目標設定と評価を行っていただきます（この目標設定と評価を合わせて、以下「評価」と呼びます）。

「評価」の目的は、プロジェクトの改善です。

今回、中期的に複数のプロジェクトのデータを一元的に設定し、収集、解析します。そのため評価の軸、アンケートの項目等は事務局で設定し、収集と解析を実施者と協働で行っていきます。

実施は事務局の提供するITツールを活用し、効果的かつ効率的なデータ収集を行います。2019年度は、参加者に共通して回答いただくデータ収集は、事務局名義により実施します。行事の本番中、また終了後の関係者に対するアンケート等の収集業務は、事務局と各主催者と協働で行いますのでご協力ください。データ収集は、プライバシーの保護を遵守しながら行います。



評価指標は、以下の通りです。申請段階で確認する指標と、助成事業実施中に確認する指標があります。

【申請段階で確認する評価指標】

- ① 自己評価が実施できる体制があるか
- * 評価の専門性がなくても、人員をつけることで事務局の支援を受けながら評価を実施できます。また、評価の専門家を必要とする場合は、採択後に事務局から紹介できます。これらの人件費、委託費は予算に計上できます。
- ② 組織は、実施における専門家、地域や利用場所の担い手、および参加の対象とする当事者（もしくは当事者と関係を持つ団体）などを含む多様な構成員でつくられているか。
 - ③ 地域ランドマークで実施を予定しているか
 - ④ プロジェクト実施回数の予定数
 - ⑤ プロジェクトへの参加者、鑑賞者数の予定数の提案

申請段階に確認する指標一覧（評価計画書）

	指標の種類	指標
1	計画の構造	自己評価を担当する担当者が1名以上団体内にいるか（兼務可）
2		組織の人材は、専門性、地域性、当事者性の面で多様か
3		地域ランドマークで実施を予定しているか
4	成果に向けた過程	プロジェクト実施回数（日数）の予定数
5		プロジェクト参加者・鑑賞者数の予定数

【助成期間中に確認する評価指標】

- ①プロジェクトを実施した公共空間の場の特徴を活かしているか
- ②プロジェクトの実施回数
- ③プロジェクトの実際の参加者・鑑賞者数
- ④プロジェクト参加者の地域への認識（満足度・誇り）のアンケート
- ⑤参加者の多様性を示す指標の設定（「あらゆる市民に芸術文化体験の機会を創出する」を表す指標）

助成期間中に確認する指標一覧

	指標の種類	指標	測定時期
1	計画の構造	地域ランドマークの場の特徴を確認	毎プロジェクト実施時、最終集計
2	成果に向けた過程	プロジェクト実施回数（日数）	毎プロジェクト実施時、最終集計
3		プロジェクト参加者・鑑賞者数	毎プロジェクト実施時、最終集計
4	成果の指標	プロジェクト参加者の地域への認識（満足度・誇り）のアンケート	毎プロジェクト実施時、最終集計
5		あらゆる市民に芸術文化体験の機会を創出するための指標の設定。指標の数は最低1項目から最大3項目。その理由も記載する。（指標例） ①全参加者のうち、65歳以上の方がプロジェクトに参加する割合を○%とする。 ②全参加者のうち、在住外国人がプロジェクトに参加する割合を○%とする。	毎プロジェクト実施時、最終集計

2 評価体制

本リーディング・プログラムでは、アーツコミッションでの独自のアセスメントに基づき、実施主体と事務局共同で評価を実施できる体制を構築します。特に、評価や、指標測定におけるITツール等の有識者と連携し、定期的にモニタリング会議を実施することで、実施主体の自己評価を支援する体制を整えます。

